別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【高美小学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

・チャレンジメニュー①：4-④自主財源確保の仕組み導入（募金箱設置）

フェスタでの募金箱設置は有効ですが、今後、新しい取り組みを起こす際にはクラウドファンディング等の活用も併せてご検討ください。また、募金による財源については、目的やその使途についてどのように報告するかなど、寄付を集める上での情報発信や案内用の配布資料を作成してみる等、効果的な取り組みになるような手法についてご検討ください。

・取り組み名称①：情報発信・広報誌

広報誌や SNS 発信の周知効果や最終なねらいとしての「各事業への新たな人材の参加」がどの程度あったのかについて、チェックや評価の手法についてご検討ください。また、年 2 回の全戸配布に加え、定期的な SNS 発信を効果的に届ける工夫ができているかもご検討ください。新たな人材参加のために必要な情報と、住民全体への周知情報を分けて発信することにより、各事業への参加促進が期待されます。

・取り組み名称②：高美フェスタ

具体的にどのように世代間交流を仕掛けるのかをご検討いただきながら取り組みを進めてください。

・取り組み名称③：健康ウォーキング

参加者が高齢者に偏っていないか、多世代がバランスよく参加できる工夫と、世代間交流をどのように仕掛けていくのかも図りながら、企画検討を進めてください。また、開催時期について歩きやすい春秋の回数を増やすことや、参加できない方や継続的に運動を行いたい方向けに、LINE オープンチャットの作成やウォーキングマップの配布等もご検討ください。

・取り組み名称⑥：あいさつ運動

より多くの地域の多世代（大人）が関わることができるように、具体的な参加の呼びかけの方法の工夫についてご検討ください。

・取り組み名称⑦：地域防災計画策定会議

参加者の偏りをなくす工夫についてご検討ください。たとえば、取り組み⑨「「わがまち防災マップ」更新事業」や取り組み⑩「防災授業」と連動させるなどの方法も考えられます。

また、校区内住民がこの場に参加することで、より意識的になり、地域との繋がりの大切さを

知ることができる機会にもなると思います。そのうえで、策定会議のなかでゲストによる他地域の事例紹介や、組織メンバーによるレクチャーなど、一般の住民が参加しやすいものとなるようご検討ください。

・取り組み名称⑧：防災研修・施設見学
　研修や施設見学に参加した方に、取り組み⑦「地域防災計画策定会議」への参加の働きかけをすること等をご検討ください。可能であれば、研修や見学の参加を前提とし、取り組み⑦「地域防災計画策定会議」において、参加者に報告をしてもらう仕組みについてご検討ください。

〔今後の活動にかかる助言〕

※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

　一部、過去にお渡しさせていただいている助言シート等と同内容の助言も掲載しております。振り返りの意味も込めてあらためてご確認ください。

・取り組み名称⑤登校見守り運動について、継続的に活動を行っているからこそ生まれている、見守り運動の価値についてや、学校や子どもたち、ご近所との信頼関係から新たな活動の種や地域活動の人材の発掘など、新たに取り組めることがないか話し合ってみてはいかがでしょうか。

・北山本小学校区まち協の「こども防災士」の取り組みは有意義と思います。高美小学校区まち協もかなり丁寧な、子どもたちを巻き込んだ防災の取り組みを考えられていますが、こういった「こども防災士」（あるいは大人の防災士も増やしていくことも含め）取得者を増やし、防災減災活動に活用していくような、次につながっていく展開も考えて、進めてみてはいかがでしょうか。
・「高美小学校区まちづくり協議会」という看板を掲げた、この地域をどういうまちにしていきたいのかという「話し合い（対話)」を丁寧に進めていくことが何よりも大切なんだということは、すでにご了解のことと思います。たとえば、「地域防災計画策定」などの取り組みを通じ、そのあたりの全体的な、多世代参加を促すような話し合い（対話）の機会づくりはできていますでしょうか？中間支援の「つどい」にコーディネート役で入ってもらってということは以前にもコメントしましたが、いかがでしょうか？
・髙美フェスタの際にでも、対話のきっかけとして直接対面での交流が難しい場合は、ボードを設置して、「誰一人取り残さない防災って、どうしたらいい？」と問いかけ、短冊や付箋に書いて貼ってもらうようにしてもいいでしょう。そして、そこに書かれたネタをもとに、対話の場でのワークショップなどにつなげていくような展開が企図されても面白いかもしれません。
・全体を通じて感じた点として、次世代の人材の発掘・育成に向けた具体的な取り組みがやや見えづらい印象がありました。地域活動の担い手を広げていくためには、どのようなきっかけから参加を促し、どのような役割を担ってもらいながら関わり続けてもらうのか、といった流れを意識した参加のロードマップを描いてみることも有効ではないかと思います。

別紙

例えば、年間行事の中で「まず地域の方と接点をつくる機会」「興味を持ってくれた方が関わる機会」「小さな役割を担ってもらう機会」といった段階を整理することで、どの事業に注力していくと良いかが見えやすくなるのではないでしょうか。
その意味では、高美フェスタのように多くの方が集まる機会は、新しい方との接点をつくる大切な場になると思います。来場者が地域活動に興味を持つきっかけとなるような仕掛けを検討してみることも一つの方法かと思います。

・情報発信については SNS（Facebook、Instagram）での発信は大切な取り組みですが、それが実際にどれくらい地域内で広がっているのかを確認しながら、他の情報伝達手段も併せて検討していくことが重要ではないかと思います。
例えば「個人同士のネットワーク」「園や学校を通じた保護者間のネットワーク」「地域情報誌などの地域メディア」といった媒体も活用することで、より幅広い方へ情報を届けられる可能性があります。
また、各回の参加者に LINE オープンチャット等に登録してもらう仕組みをつくることで、イベント後も情報が確実に届きやすくなり、継続的な関係づくりにもつながるのではないかと思います。

・防災に関する取り組みが多く計画されている点については、非常に意義のあるテーマだと感じました。その際には、「地域にとって防災とはどのような意味を持つのか」を伝えるメディアやツール（チラシ、ミニ冊子、パネル等）を準備しながら、年間を通じて参加しやすく、また参加したくなるようなイベントを企画していくことで、防災をきっかけとした地域のつながりづくりにも発展していくのではないかと思います。

・こうした視点を踏まえながら、年間計画の整理に加えて、3 年後・5 年後を見据えた地域活動のビジョンマップのようなものを描いてみることも、今後の活動をより持続的にしていくうえで有効な方法ではないかと感じました。